【授業科目】周産期医学　　Perinatal medicine

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
朝倉 徹夫（産科） 牧 兼正、後藤 盾信 周山 めぐみ（小児科）	3年次後期 4年次前期	選　択	2	30	講義	あり	巻末掲載	否

授業概要（内容と進め方）及び課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／妊娠、分娩、産褥、および新生児の生理と異常について学習し、助産診断に必要な、最新の周産期医療現場で必須の知識を習得する。異常に対する診断および治療法を理解することに加えて、思春期の月経異常とホルモン療法、更年期のホルモン療法や性感染症について学習を深める。不妊症と高度生殖医療の実際、胎児の発育・発達評価のための超音波断層法など、助産診断に必要な知識を学習し、助産実習に活用することができる。演習では会陰縫合術、新生児蘇生術について学び、助産実習に活用することができる。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／　提出した課題のコメントは授業で全体もしくは個別での総評を行う。 ＊実務経験を持つ教員が授業を進める。
実務経験に関する授業	産科領域および新生児領域の臨床経験を持つ教員が、助産師として必要な医学知識について、実務経験を交えながら指導する科目である
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会全体の生活者の視点から看護の役割を考え、実践することができる」の達成に寄与している。
到達目標（履修者が到達すべき目標）	①正常妊娠・分娩・産褥の生理と診察法を述べることができる。 ②正常新生児の生理と診察方法を述べることができる。 ③異常妊娠・分娩・産褥の病態生理を述べることができる。 ④ハイリスク新生児への対応が説明できる。 ⑤思春期から不妊症についての知識を深め、述べることができる。 ⑥超音波診断法、会陰縫合術、新生児蘇生が演習で実施できる
時間外学習に必要な内容・時間	【事前学習】 第1～10回：教科書の該当頁を読んでおく(各30分)。 正常妊娠、正常分娩、正常新生児について自己学習、ノート作成、提出 【事後学習】 第1～15回：自己学習ノートに整理しまとめる。学んだ知識を助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで活用できるよう工夫する。(各30分) ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	【3年次】 第１回　正常妊娠 妊娠の成立から妊娠により引き起こされる母体の変化 胎児の発育　正常妊娠の経過診断 第２回　異常妊娠－１：妊娠悪阻、切迫流早産、過期産、異所性妊娠、絨毛性疾患等 第３回　異常妊娠－２：妊娠高血圧症候群、多胎妊娠、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、子宮破裂等 第４回　妊娠合併症：TORCH症候群、DM,甲状腺機能異常、血液疾患、自己免疫疾患、婦人科疾患、感染症、心疾患等 第５回　環境因子と妊娠、生殖補助医療、遺伝：環境因子（栄養・化学物質・薬剤）が妊婦・胎児の健康に及ぼす影響と染色体異常について 第６回　正常分娩 【4年次】 第７回　異常分娩：胎位の異常、娩出力の異常、回旋の異常、多胎分娩等 第８回　産科手術・救急について－１：帝王切開、吸引分娩、分娩促進法など 第９回　周産期における超音波診断法（演習） 第10回　異常産褥 第11回　産科手術（縫合術を含む）・救急について－２：縫合術含む（演習） 第12回　正常新生児の診察法・新生児異常とその対応 第13回　ハイリスク新生児とその対応－１（低出生体重児含む） 第14回　ハイリスク新生児とその対応－２（新生児蘇生、新生児挿管を含む） NCPR Aコースの資格を取得する。(演習) 第15回　新生児医療のトピックス：乳児の健康診査、予防接種含む	（産科） 第1回～11回 朝倉 （小児科） 第12回～15回 牧、周山、後藤
評価方法 評価基準	NCPR Aコース 資格試験の合格を必修とし、定期試験80%、自己学習ノート提出20%で総合的に評価する。
教科書	荒木　勤：最新産科学正常編、文光堂 荒木　勤：最新産科学異常編、文光堂 細野茂春：日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト(第4版)　MEDICAL VIEW社
参考書等	助産学講座 1-10　医学書院 仁志田博著『新生児学入門』医学書院
学生への助言等	助産師国家試験受験資格に関わる必修科目です。助産診断を行う上で必要な知識です。しっかり理解し覚えて下さい。